

# 「IT標準化支援プログラム」説明会資料

2019年4月23日

## 本資料について

- 本資料は、「平成29年度産業データ共有促進事業補助金」（以下、「本事業」）において、一般社団法人環境共創イニシアチブより、一般社団法人データ流通推進協議会（以下、DTA）に委託した「採択者向け勉強会」で使用したものです。
- データ共有を検討されている皆様にも広くご活用いただくため、一部改編を行い公開を行っております。

経済産業省「平成29年度補正予算 産業データ共有促進事業費補助金」  
採択 補助対象事業者 向け

## 「IT標準化支援プログラム」説明会

産業データ共有を実現するためのIT標準化支援  
- データカタログ・共通語彙 -

2018年7月24日

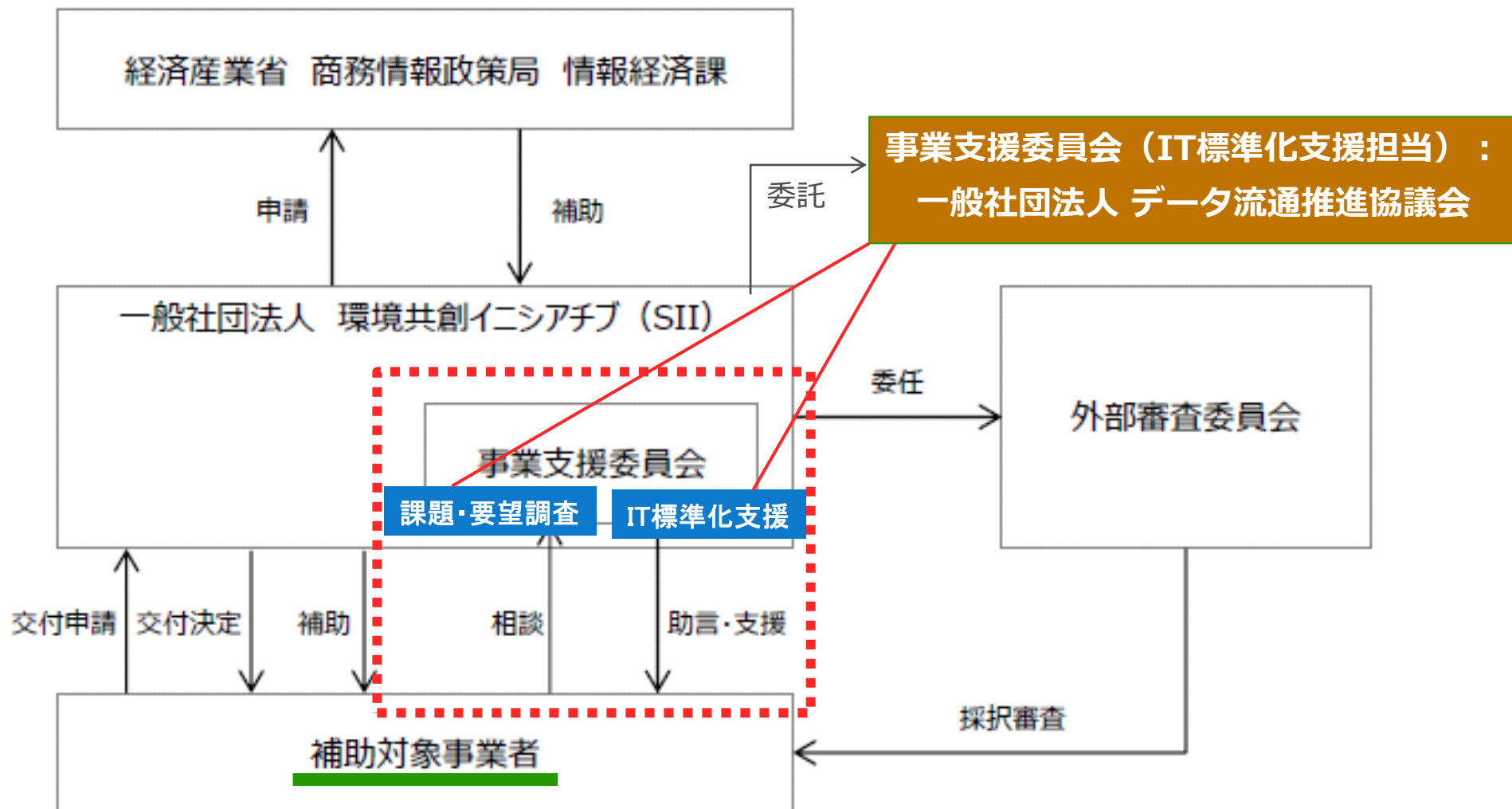
## 本日の説明内容



1. 事業における「IT標準化支援」の位置づけ
2. IT標準化支援プログラムの概要
3. 産業データ共有の効果とそのためIT基準
4. 課題・要望調査のためのアンケートのお願い

## 産業データ共有促進事業における「IT標準化支援」の位置づけ

- 産業データ共有促進事業の事業支援委員会では、下記の2点の調査と支援を実施します。
  - (1) 補助対象事業者が産業データを共有する際の課題・要望の調査
  - (2) 補助対象事業者向けに産業データ共有を実現するためのIT標準化支援



# (ご参考) データ流通推進協議会

# IT標準化支援 体制

## データ流通推進協議会

データ提供者が安心して、かつスムーズにデータを提供でき、またデータ利用者が欲するデータを容易に判断して収集・活用できる技術的・制度的環境を整備すること等を目的とする団体。

## データ流通推進協議会の概要

### ■ 団体名

一般社団法人 データ流通推進協議会  
Data Trading Alliance / DTA

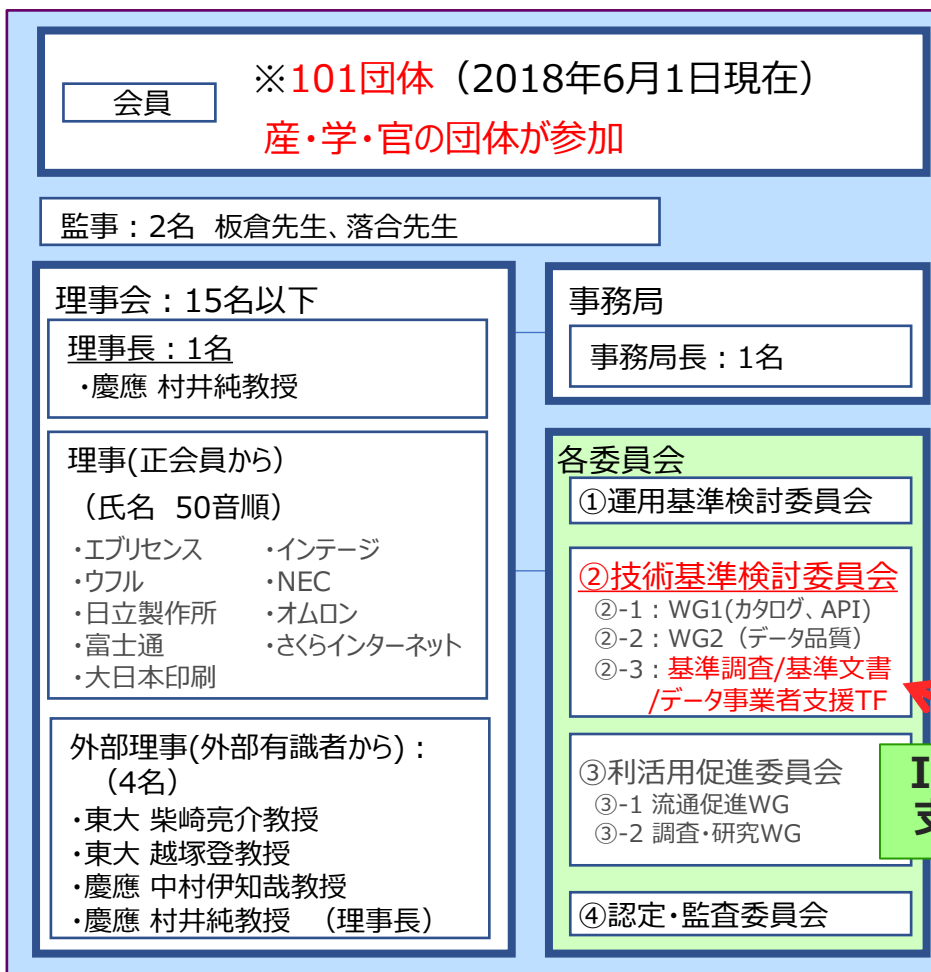
### ■ 設立時期

2017年11月1日


### ■ 事業概要

- (1) データ流通事業者等の運用基準の策定
- (2) **データ流通事業者等の技術基準の策定**
- (3) データ流通事業者等の運用基準及び技術基準に基づく認証・監査・公表
- (4) データ流通市場活性化のためのデータ利活用の創出支援
- (5) データ流通市場を巡る法的課題や国際連携等に関する調査・研究
- (6) データ流通市場に関連する関係省庁への政策提言及び関連団体との連携
- (7) 前各号に掲げるもののほか、データ流通市場の健全な成長のために必要な活動

## データ流通推進協議会の体制



## 本日の説明内容

1. 事業における「IT標準化支援」の位置づけ
-  2. IT標準化支援プログラムの概要
3. 産業データ共有の効果とそのためIT基準
4. 課題・要望調査のためのアンケートのお願い

## IT標準化支援プログラムの概要（1）

- 補助対象事業者様 への「[課題・要望の調査](#)」と「[IT標準化支援](#)」を下記内容で実施します。

補助対象事業者



### （1）「IT標準化支援プログラム」説明会（本日）

- (a) 事業における「IT標準化支援」の位置づけ
- (b) IT標準化支援プログラムの概要
- (c) 産業データ共有の効果とそのためのIT基準**
- (d) アンケートのお願い

### （2）課題・要望調査のためのアンケート 期間：8月上旬

- (a) 産業データを共有する際の課題・要望の調査（アンケート）
- (b) IT標準化支援プログラム(データカタログ、共通語彙策定)の希望調査

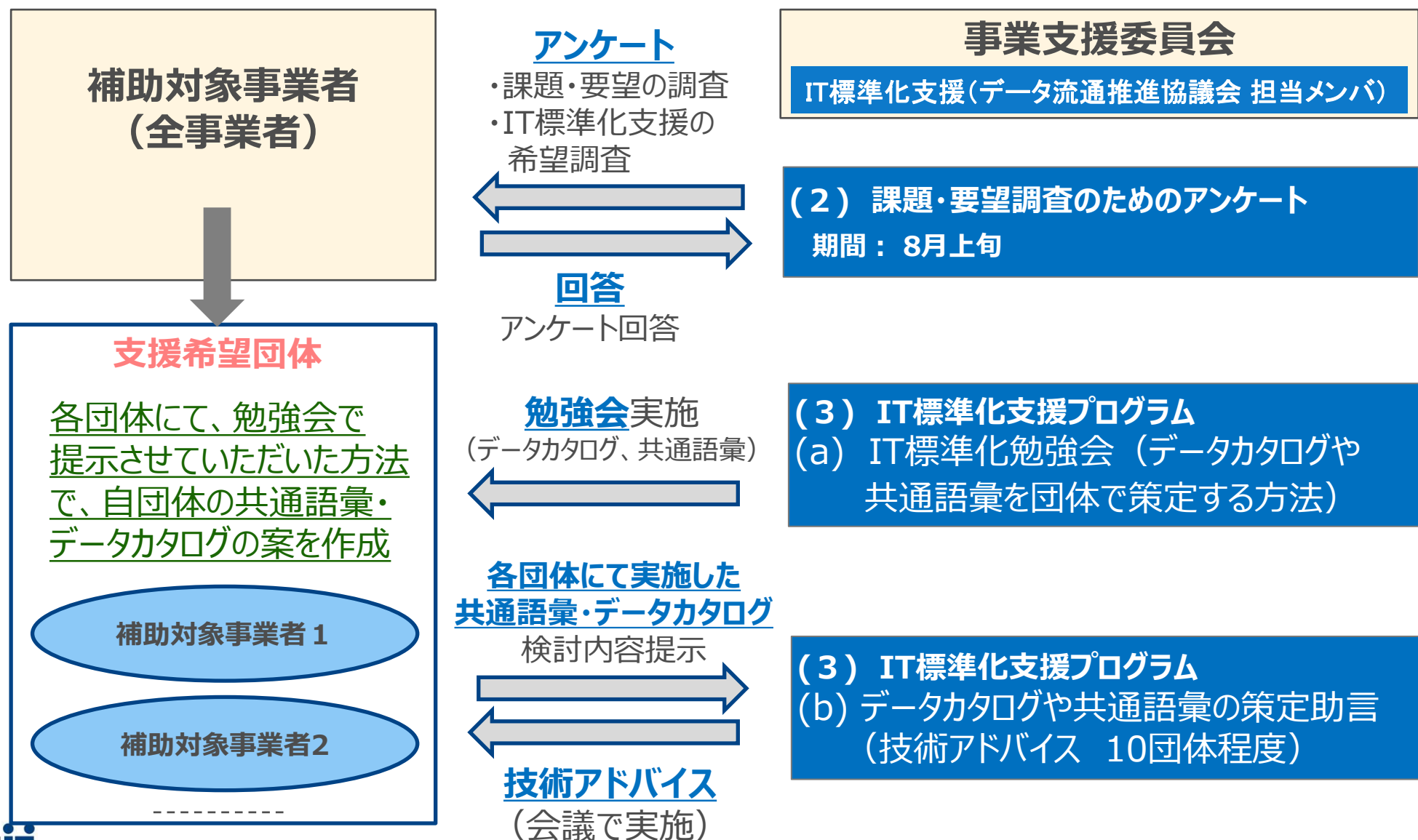
### （3）IT標準化支援プログラム（データカタログ、共通語彙策定）（希望団体）

- (a) IT標準化勉強会（データカタログや共通語彙を団体で策定する方法）  
↓ 支援プログラムの希望団体申し込み
- (b) IT標準化支援プログラム(**データカタログや共通語彙の策定助言**)



# IT標準化支援プログラムの概要（2）

## － 役割別の実施概要




# IT標準化支援プログラムの概要（3） - スケジュール

- 補助対象事業者向けのIT標準化支援は、会議にて教育・助言等の実施を予定しています。

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>2018年度 事業</b>		→									
全団体向け (1) 補助対象事業者向け 「IT標準化支援プログラム」 説明会		★第1回 向け支援 説明会	★第2回 向け支援 説明会								
全団体向け (2) 課題・要望調査のための <b>アンケート</b>											
希望団体向け (3) IT標準化支援プログラム <b>(a)IT標準化勉強会</b> (予定)							★ IT標準化 勉強会	(データカタログ、共通語彙作成)			
希望団体向け (3) IT標準化支援プログラム <b>(b) データカタログや 共通語彙 の策定助言</b> (予定)							★1回 技術 アドバイ 会議	★2回 技術 アドバイ 会議	★3回 技術 アドバイ 会議		

## 本日の説明内容

1. 事業における「IT標準化支援」の位置づけ
2. IT標準化支援プログラムの概要
-  3. 産業データ共有の効果とそのためIT基準
4. 課題・要望調査のためのアンケートのお願い

## 3章のご説明内容

### 3. 産業データ共有の効果とそのためのIT基準



3.1 産業データ共有の効果

3.2 産業データ共有の課題

3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ]

3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙]

3.5 産業データ共有の実現  
(データカタログ、共通語彙の整備)

## 3.1 産業データ共有の効果（1）－ 経産省「Connected Industries」

### Connected Industriesの考え方～我が国産業が目指す姿（コンセプト）～

**従来** 事業所・工場、技術・技能等の電子データ化は進んでいるが、それぞれバラバラに管理され、連携していない

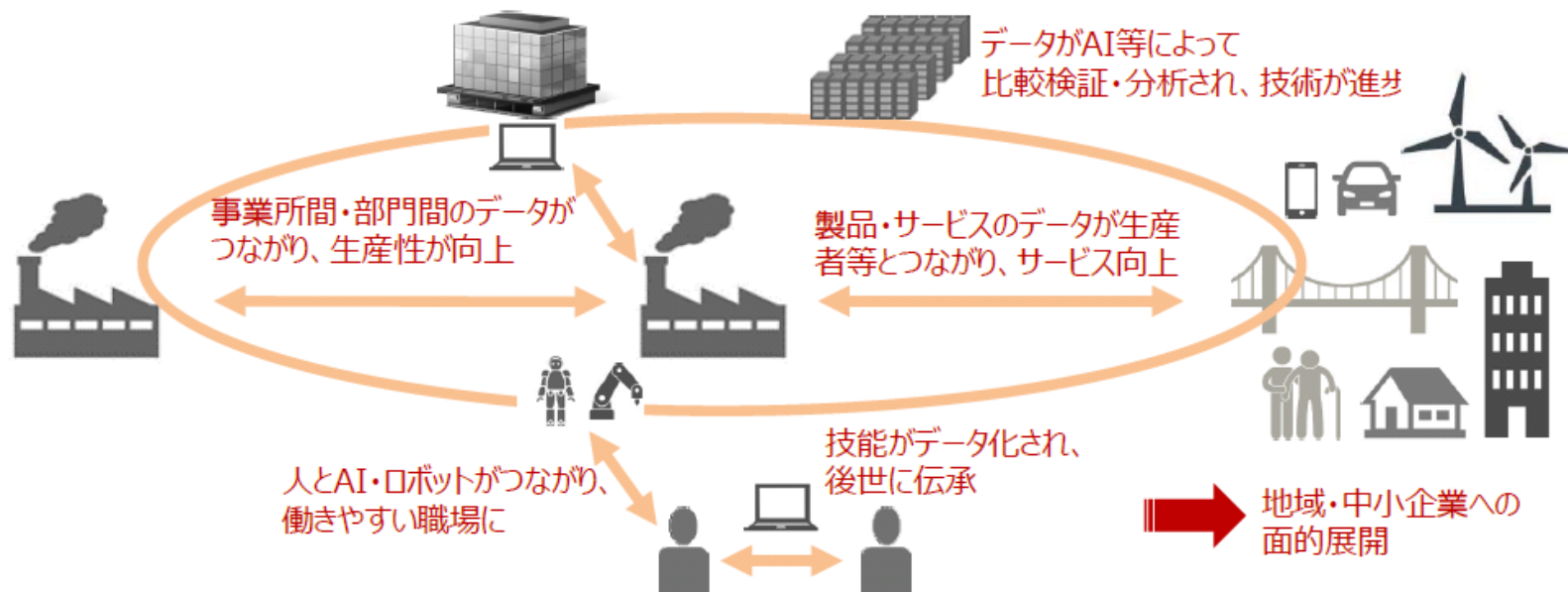
産学官における  
議論喚起・検討

モビリティ、ものづくり、バイオ・素材、プラント保安、スマートライフなど分野別の取組

データ利活用、標準化、IT人材、サイバーセキュリティ、AI開発など横断的な取組

**将来** データがつながり、有効活用されることにより、技術革新、生産性向上、技能伝承などを通じた課題解決へ

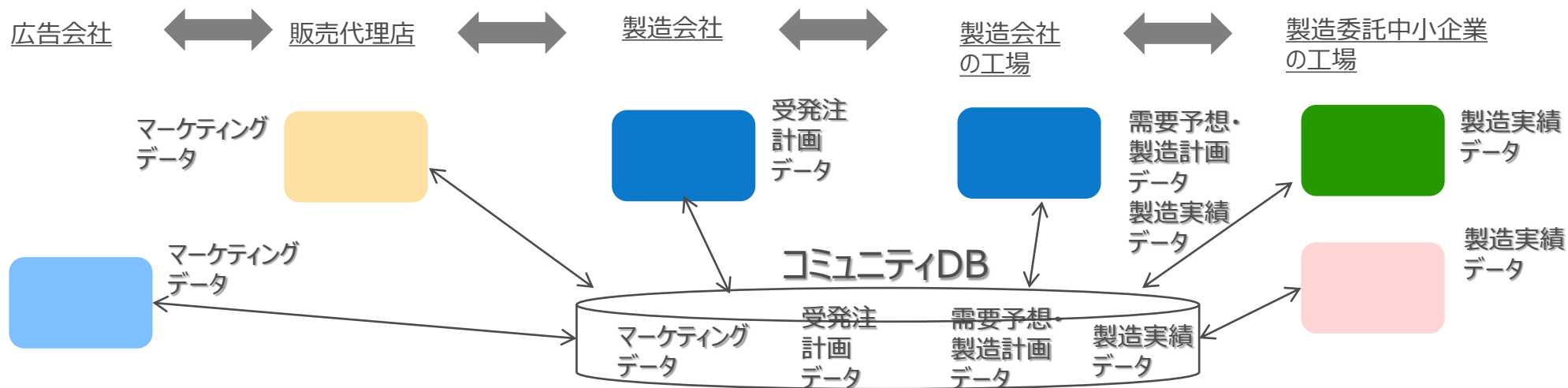
「Connected Industries」は、Made in Japan、産業用ロボット、カイゼン等続く、日本の新たな強みに



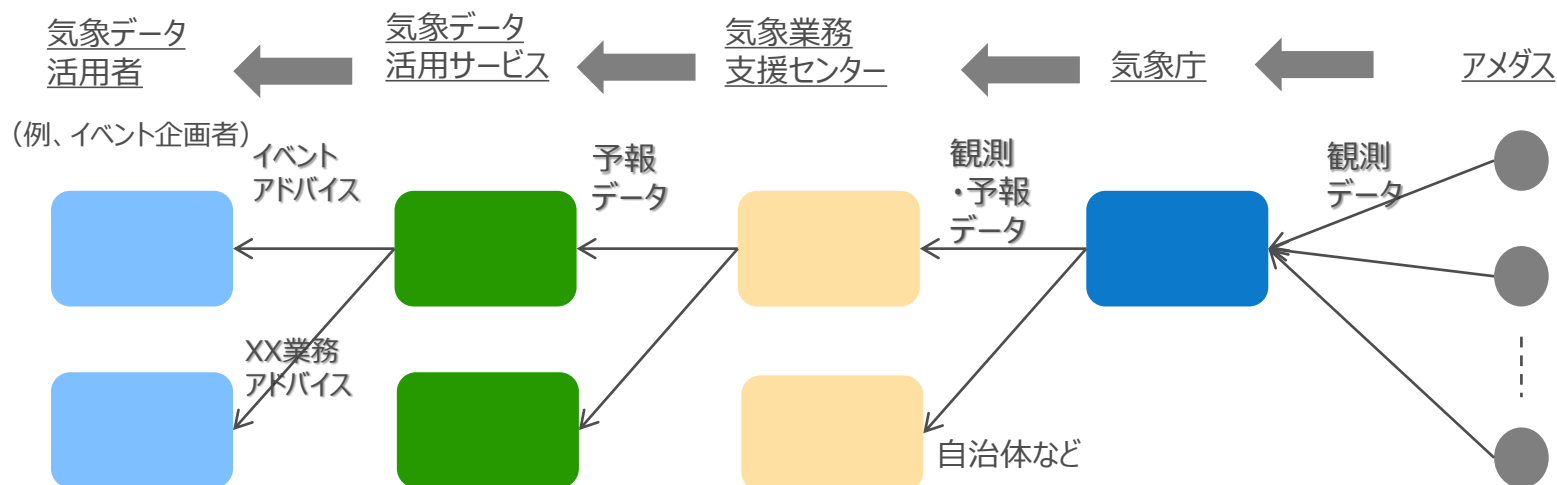
1

## 3.1 産業データ共有の効果（2） - データ共有のイメージ

### 産業データのビジネス利用 1： サプライチェーンや、流通チェーンのデータ交換による各業務の効率化



### 産業データのビジネス利用 2： IoTデータによる新バリューを生み出すチェーン（例、気象データ共有）



## 3章のご説明内容

### 3. 産業データ共有の効果とそのためのIT基準

#### 3.1 産業データ共有の効果



#### 3.2 産業データ共有の課題

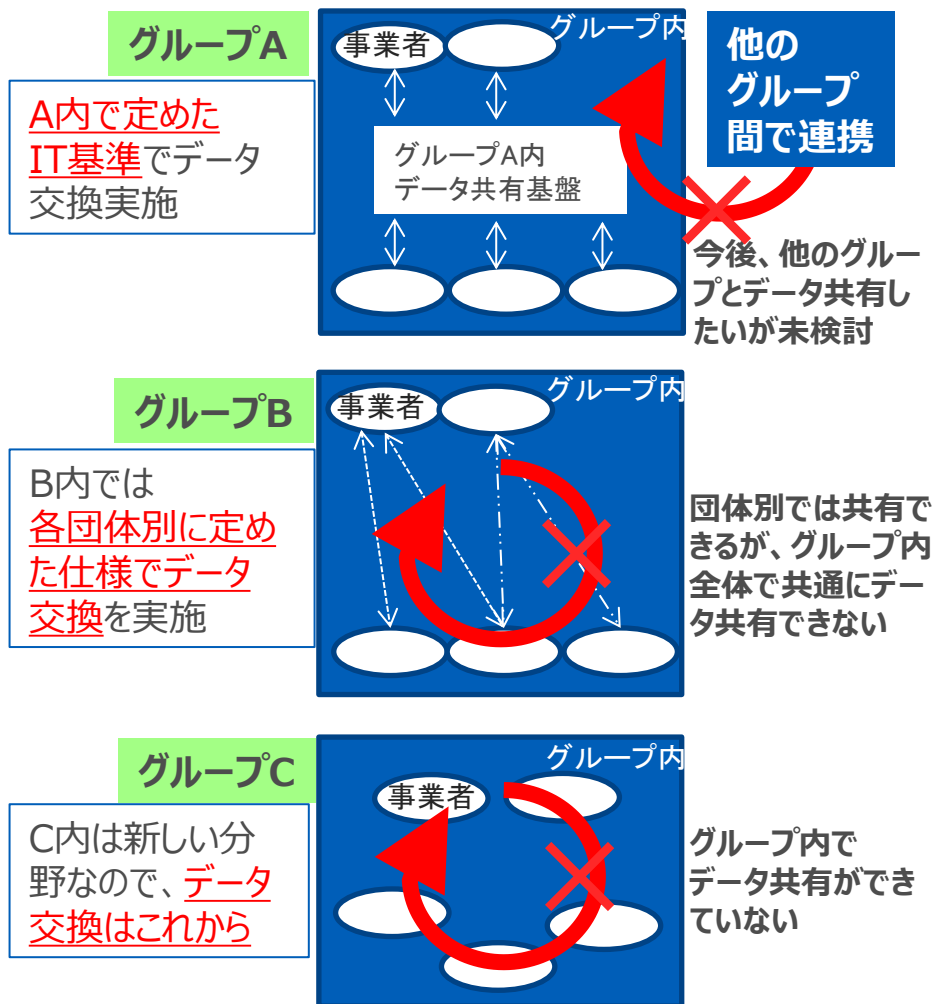
#### 3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ]

#### 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙]

#### 3.5 産業データ共有の実現 (データカタログ、共通語彙の整備)

## 3.2 産業データ共有の課題（1）

- 各グループや企業単位で、**データ共有のIT標準の整備やデータ交換**が、始まっているが、グループ内の共通化をこれから実施するグループも多い。
- グループ内や他のグループ間でデータを探し、活用するためには、**「検索性」「互換性」「品質」の課題**が存在する。



課題分類	産業データ共有の課題
① 検索性課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どのようなデータがあるかわからない</li> <li>• データの所在がわからない</li> <li>• データの内容がわからない</li> <li>• データの利用条件がわからない</li> <li>• 個人データやIoTデータなど区分が不明確</li> </ul>
② 互換性課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データの仕様が統一されていない</li> <li>• データが事業者間で融合できない</li> <li>• 統一コード(や辞書)の整備が遅れている</li> <li>• データ取得方法がシステム毎に異なる</li> <li>• 事業者間の統一IDや認証方法がない</li> </ul>
③ 品質課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データの品質基準が不明確</li> <li>• データの品質レベルの基準が不明確</li> <li>• データ品質の明示方法が不明確</li> </ul>

(データ流通推進協議会のWGの意見まとめ)



## 3.2 産業データ共有の課題（2） データの検索性の課題

### ① 検索性課題（例）

- ◎ 様々な企業でデータ共有整備が始まっているが、個別に実施されているため、探したいデータがどこにあるか、また、どのように探してよいかわからず、データにリーチできない。
- ◎ 情報にリーチできたとしても、データカタログの形式が異なるため、比較ができない。
- ◎ データの利用を判断する情報が記載されていない（センサー観測情報やデータ利用条件、等）

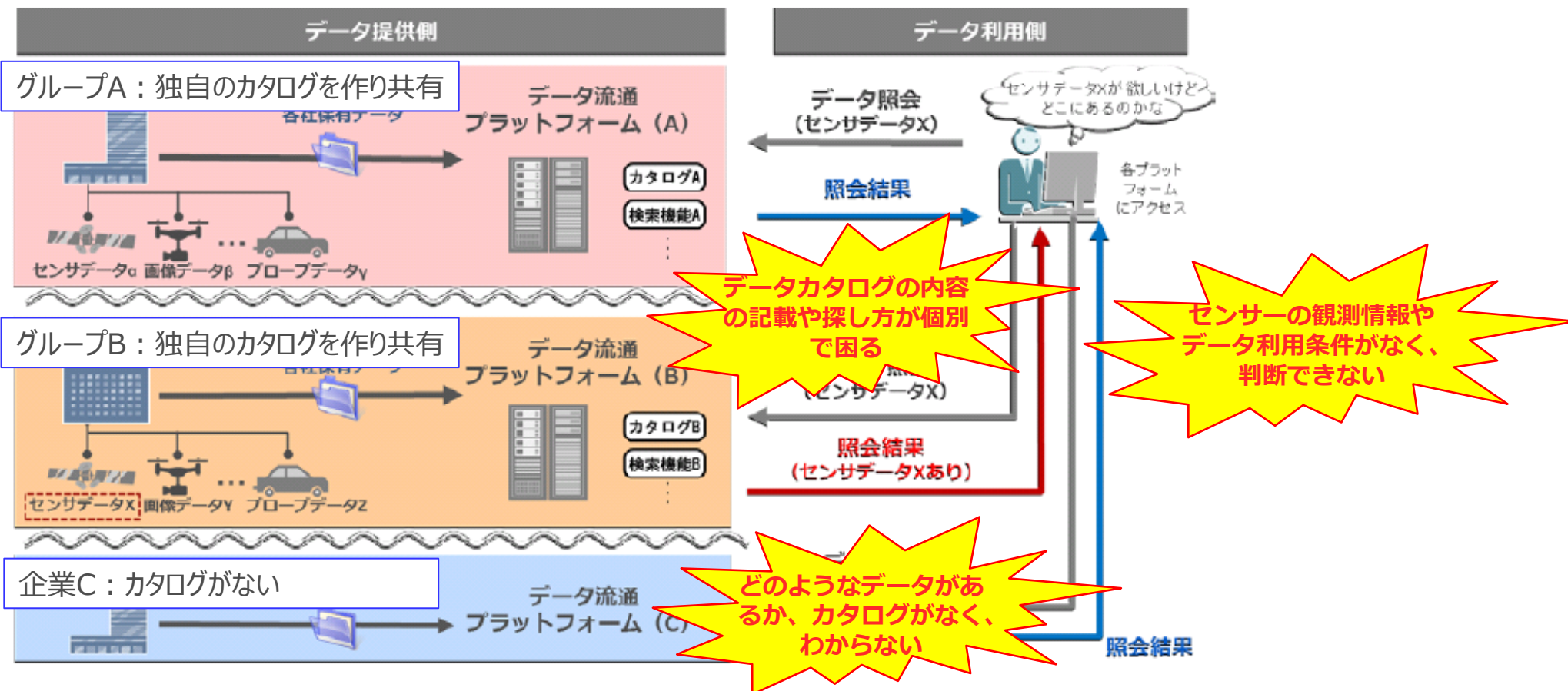
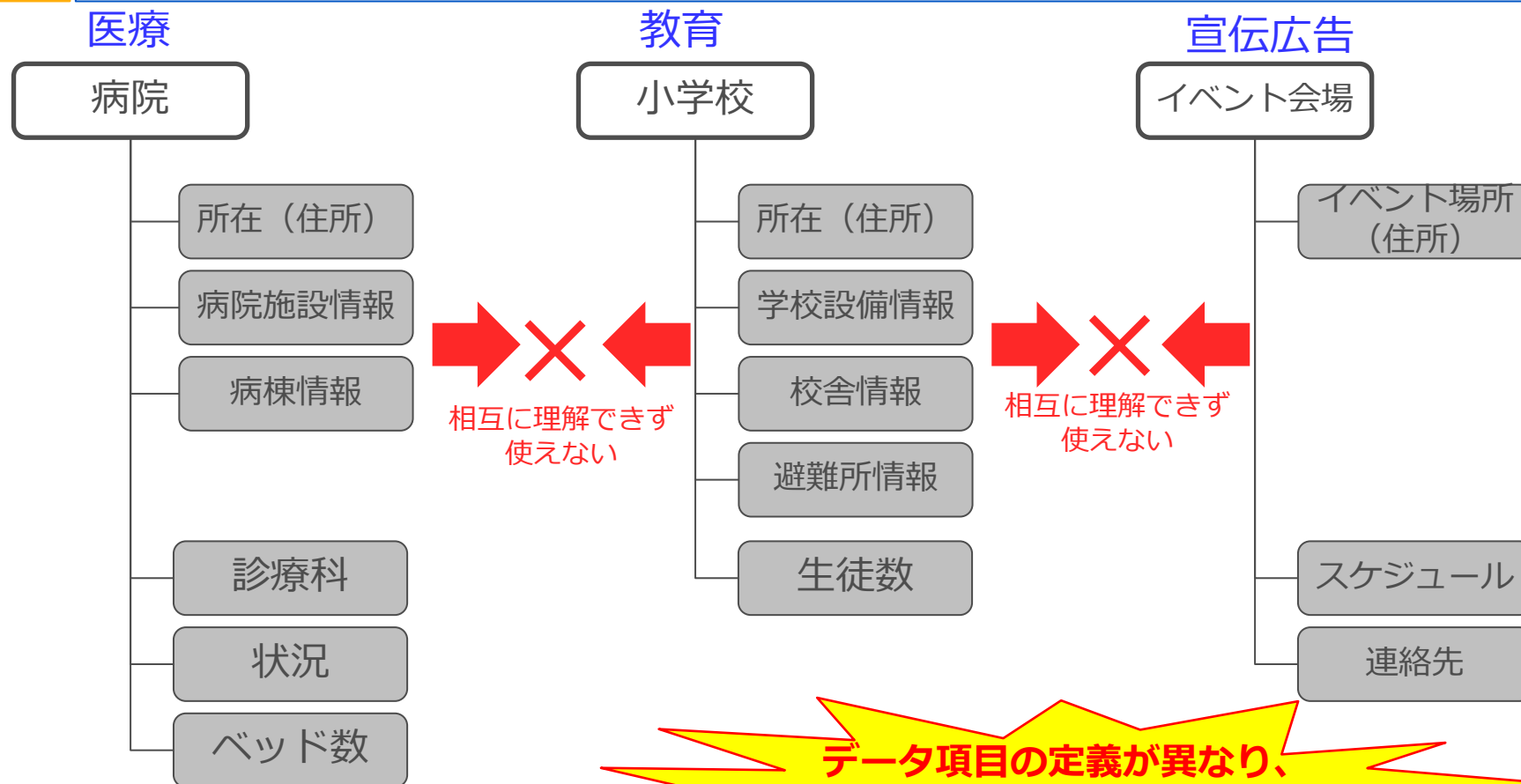


図 3-2 各々のプラットフォームにクローズしたデータ流通市場

## 3.2 産業データ共有の課題（3） データの互換性の課題

### ② 互換性課題 (例)

◎組織固有にデータ公開が開始されている。異なる分野/事業者のデータを集めてDBを作成したり、地図にマッピング等したいが、**データ項目の定義が異なるため、項目を理解できず、情報の集約や分析などができない**といった課題がある。



**データ項目の定義が異なり、情報の集約や分析が困難**

## 3章のご説明内容

### 3. **産業データ共有**の効果とそのためのIT基準

3.1 産業データ共有の効果

3.2 産業データ共有の課題

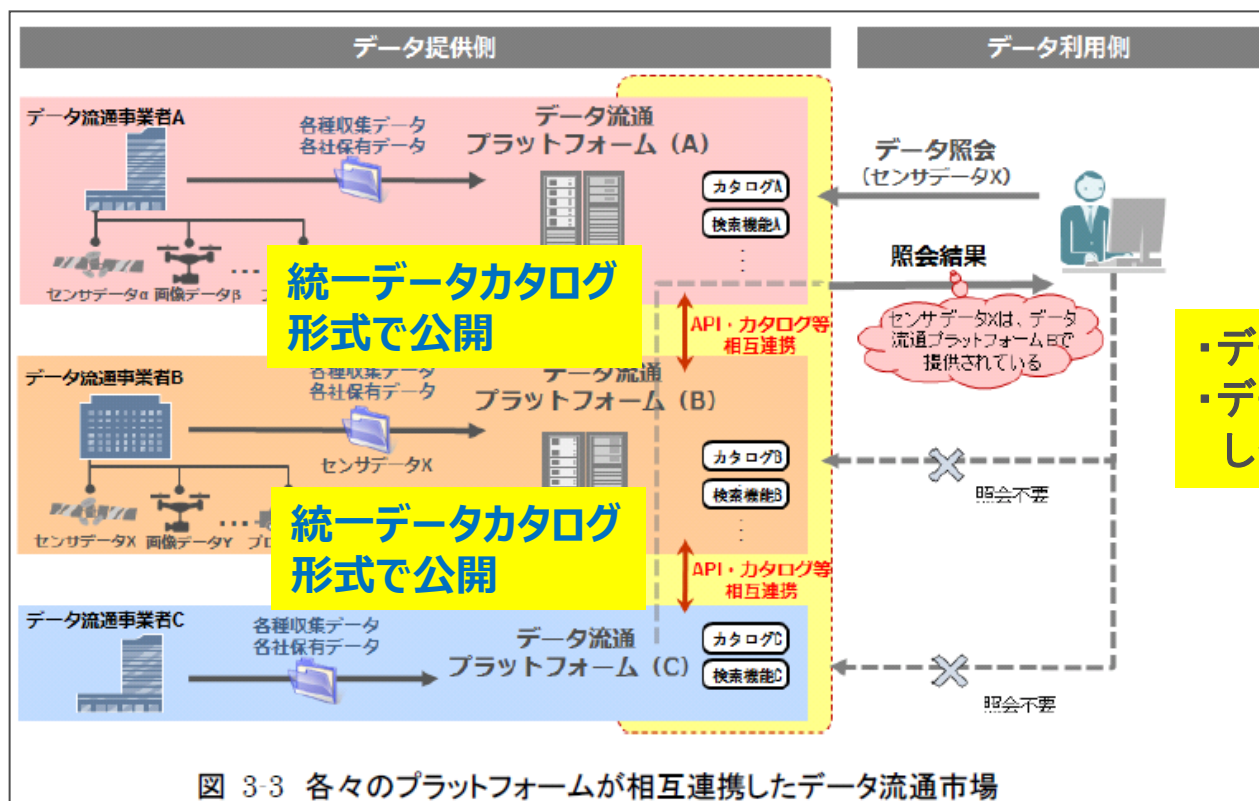
 3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ]

3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙]

3.5 産業データ共有の実現  
(データカタログ、共通語彙の整備)

### 3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ] (1)

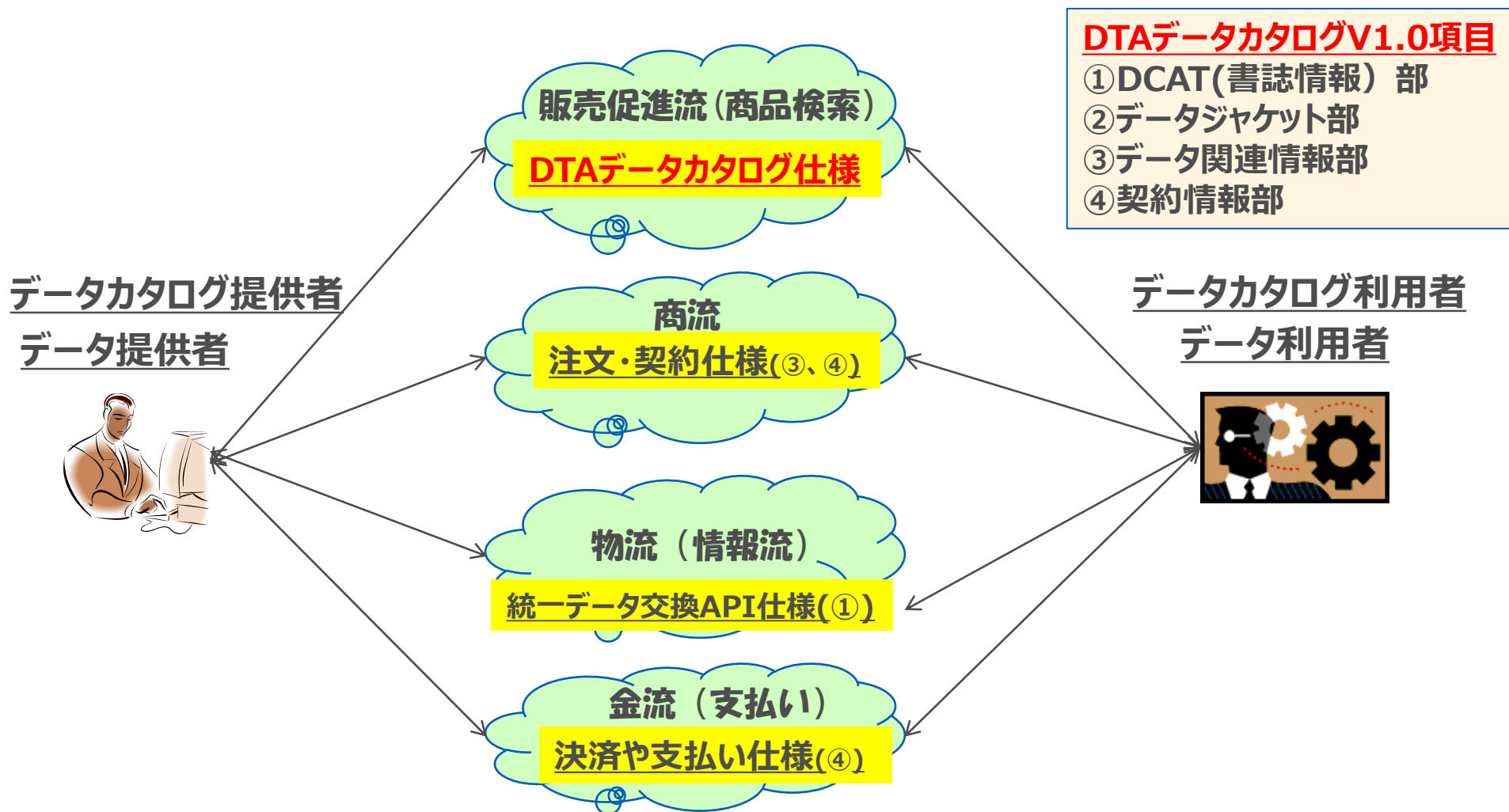
課題分類	産業データ共有の課題	課題を解決するIT基準の要件
① 検索性課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どのようなデータがあるかわからない</li> <li>• データの所在がわからない</li> <li>• データの内容がわからない</li> <li>• データの利用条件がわからない</li> <li>• 個人データやIoTデータなど区分が不明確</li> </ul>	<p>① 統一データカタログ形式標準採用                      (概要・属性・特性(品質)・契約)                      ⇒ <u>DTA データカタログ V1.0</u>                      (2018年2Qリリース予定)</p> <p>② データカタログAPI標準 (今後策定)</p>



・データが探しやすい  
 ・データの利用判断がしやすい

### 3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ] (2)

◎ **DTAデータカタログV1.0**(2018/2Qリリース予定) は、「データ流通プラットフォーム間の連携を実現するための基本的事項(IoT推進コンソーシアム、他) (\*1)」の要望により、DTA(データ流通推進協議会)で策定したIT標準。



### 3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ] (3)

#### ①DCAT(書誌情報) 部

領域	データカタログのデータ項目	サンプル値/データ例 (イメージで作成)
一般的なデータカタログ	データセット	
	タイトル	A市住宅電力使用量集計
	公表組織名	スマートメータ事業社
	作成者	
	タグ	A市、住宅、
	リリース日	
	ディストリビューション	
	タイトル	A市B町201計
	データ形式	CSV
	ファイルサイズ	
	最終更新日	
	ライセンス	

**DTAデータカタログV1.0**  
のイメージ図  
(詳細は勉強会で  
ご説明します)

#### ②データジャケット部

データカタログのデータ項目	サンプル値/データ例 (イメージで作成)
ジャケット的に人が見て理解する項目	※人の言葉でデータの利用や特性を記載した文 (データジャケット的な項目)

#### ③ データ関連情報部

領域	データカタログのデータ項目	サンプル値/データ例 (イメージで作成)
測定環境、	観測	
	観測名	11223344/電力使用量
	センサ	
	デバイス名	445566/電力スマートメータ
	設置場所(世界測地系)	(東経139度44分28秒8759,北緯35度39分29秒1572)
	観測対象	
	観測対象名	A市B町の個人住宅群
	観測特性	
	測定値名	1時間の最大消費電力値
	測定単位	KW/h

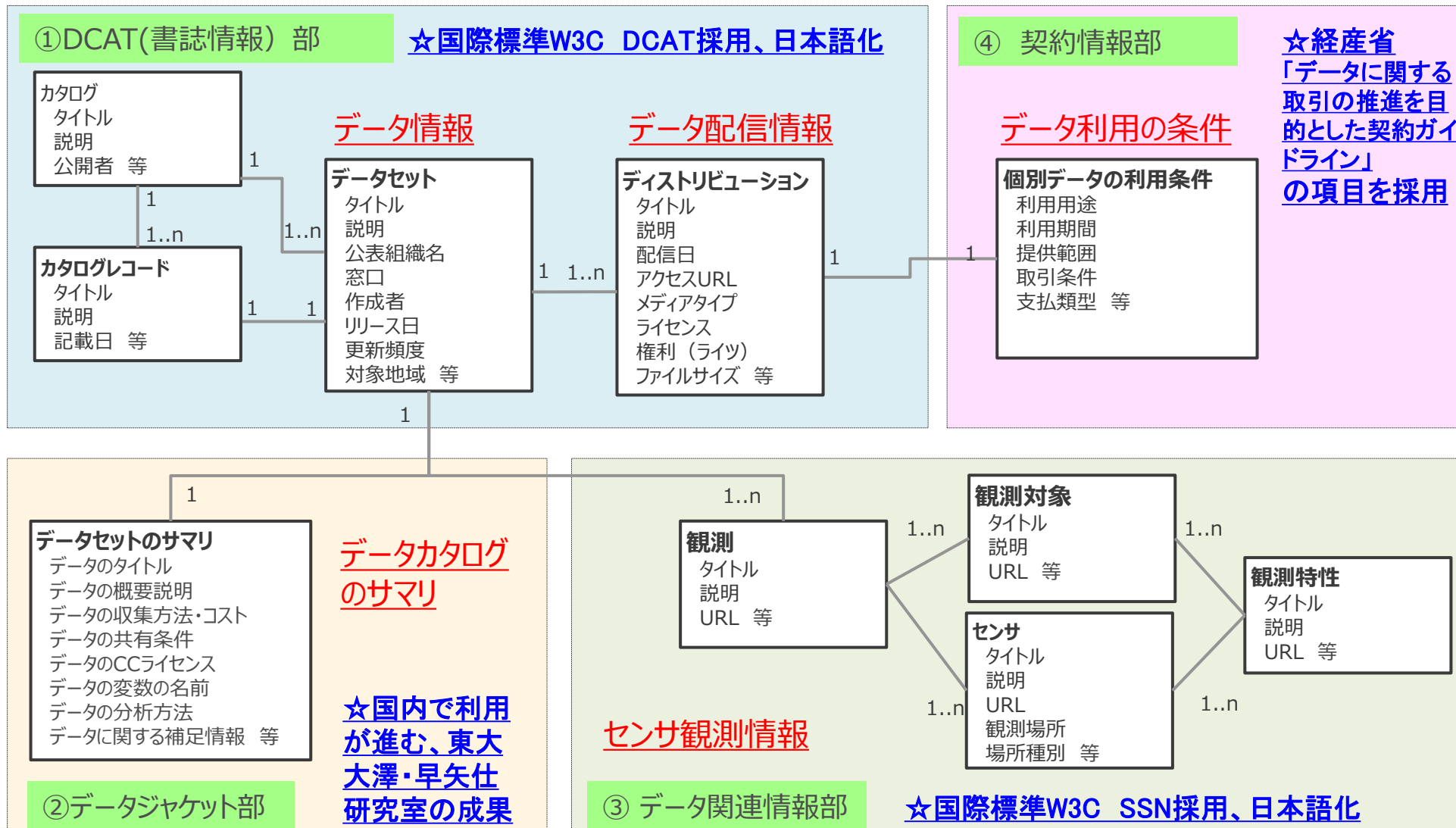
#### ④ 契約情報部

領域	データカタログのデータ項目	サンプル値/データ例 (イメージで作成)
データ契約情報	提供範囲	
	データの内容	指定地域(市町レベル)の時間別の地域別電力最大値
	データの提供方法	API(要求回答型)
	データの仕様	電力使用量集計フォーマット#3155
	提供機能の性質・品質	鮮度(1時間間隔)、粒度(10秒間隔測定の最大値)、提供サービス信頼度(取得率99.99%以上)
	取引条件	
	利用範囲	スマートメータデータ利用許諾契約雛形「#3544」
	データの取得条件	データの解析用、分析は可能、再配布禁止
	データの利用期間	契約締結の翌日0時から1年間
	支払い分類	
	支払い条件	個別に調整や 固定料金: 月末請求



### 3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ] (4)

- ◎ **DTAデータカタログV1.0**は、下記の4パートからなる、データカタログ項目群で定義されています。
- ◎ **データカタログを作成する方**は、「扱うデータ」や「契約」により各パートを取捨選択して利用します。



## 3章のご説明内容

### 3. **産業データ共有**の効果とそのためのIT基準

3.1 産業データ共有の効果

3.2 産業データ共有の課題

3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ]



3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙]

3.5 産業データ共有の実現  
(データカタログ、共通語彙の整備)



### 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (1)

#### 産業データ共有の動向

- データ共有が始まる中で、データ仲介事業者が、独自のデータ項目(コード)仕様で、データ提供を開始している。
- 利用者は、個別にデータ仕様を確認して、利用するためのデータ変換を実施している。



#### 課題分類

②  
互換性  
課題

#### 産業データ共有の課題

- 【データ交換用の語彙やコード関係】
- データの仕様が統一されていない
  - データが事業者間で融合できない
  - 統一コード(や辞書)の整備が遅れている

参考:人の目では気が付きにくいデータ不統一



人が見たとき、2つに違いはない  
(脳が柔軟に違いを吸収できる)

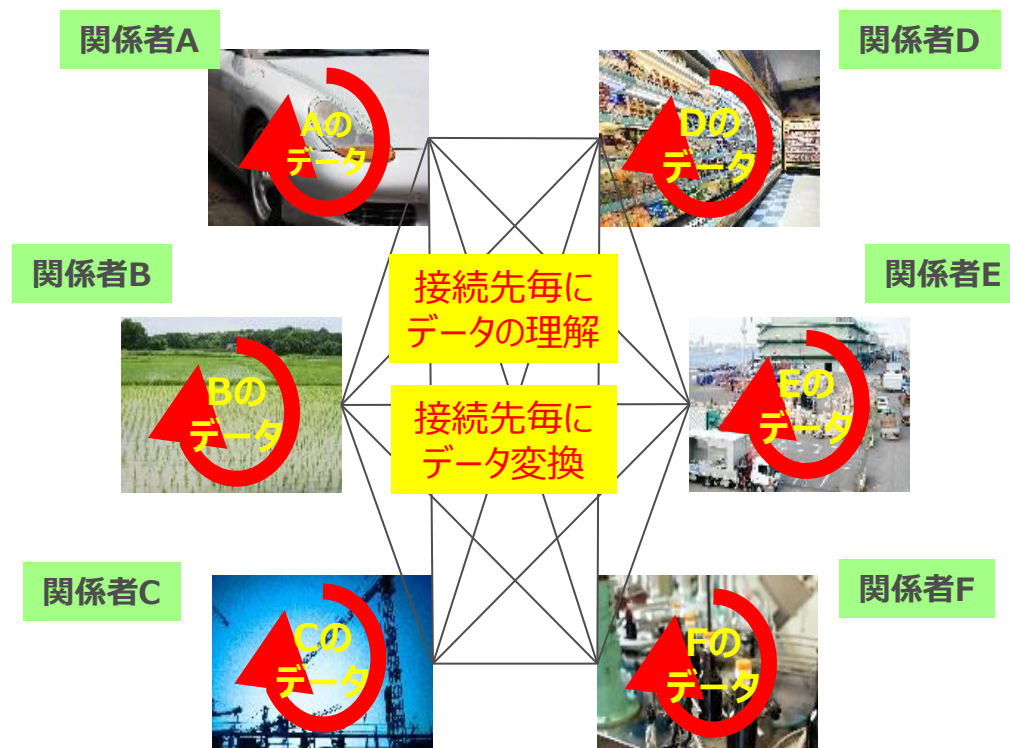
データ構造①	
企業名	XXXX株式会社
代表者	XX太郎
住所	千代田区霞が関1-3-1
電話	03-3501-3901

データ構造②	
会社名	XXXX株式会社
責任者	XX太郎
所在地	東京都千代田区霞が関1-3-1
連絡先	03-3501-3901

コンピュータにとっては、全然違う



出典: 経済産業省 「官民データ利活用に向けた政府の取組」 資料  
[https://imi.go.jp/doc/20180129\\_r1\\_1.pdf](https://imi.go.jp/doc/20180129_r1_1.pdf)

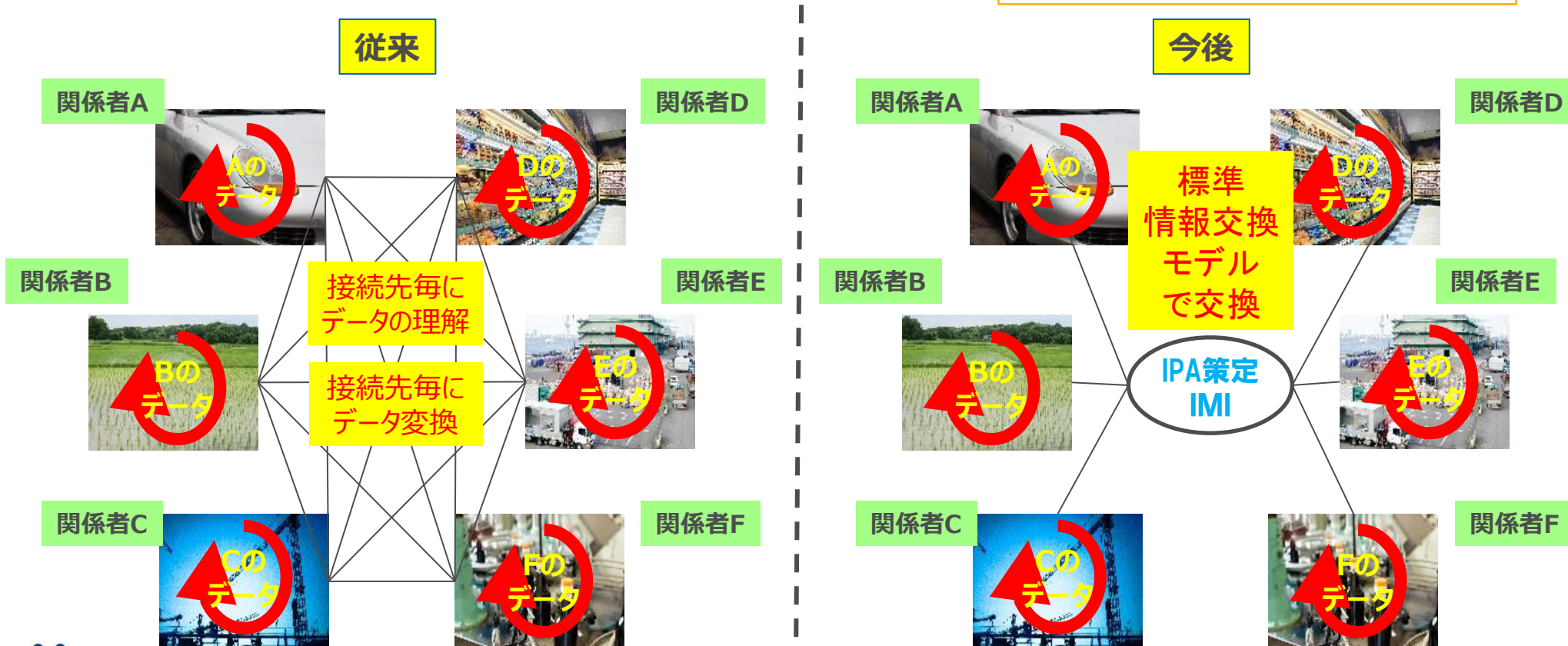


## 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (2)

課題分類	産業データ共有の課題
② 互換性課題	【データ交換用の語彙やコード関係】 <ul style="list-style-type: none"> <li>データの仕様が統一されていない</li> <li>データが事業者間で融合できない</li> <li>統一コード(や辞書)の整備が遅れている</li> </ul>



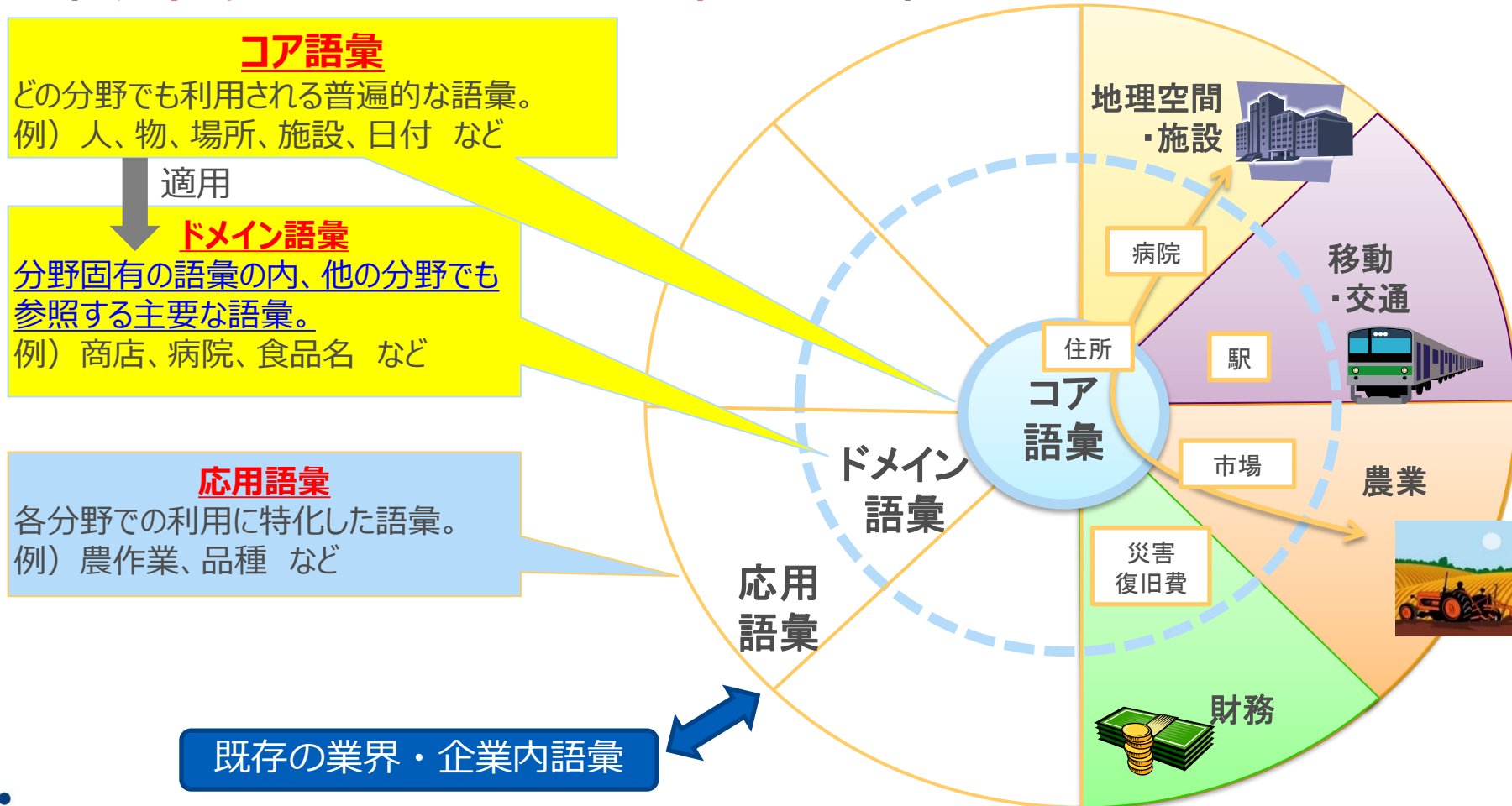
課題を解決するIT基準の要件
標準情報交換モデルで交換する <ol style="list-style-type: none"> <li>IPA策定 共通語彙基盤採用</li> <li>国が定めたコード定義を採用</li> <li>機械判読のデータ形式を採用</li> </ol>



## 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (3)

◎ **IPA共通語彙基盤 (IMI : コア語彙)** は、各事業者間でデータ交換実現するフレームワークでIPAにて策定。

- ・ 社会全体で使われる共通性の高い用語 : **コア語彙**
- ・ 専門分野で使われる用語 : **ドメイン語彙**・**応用語彙**  
(他分野で参照されることが多い語彙 : **ドメイン語彙**)



## 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (4)

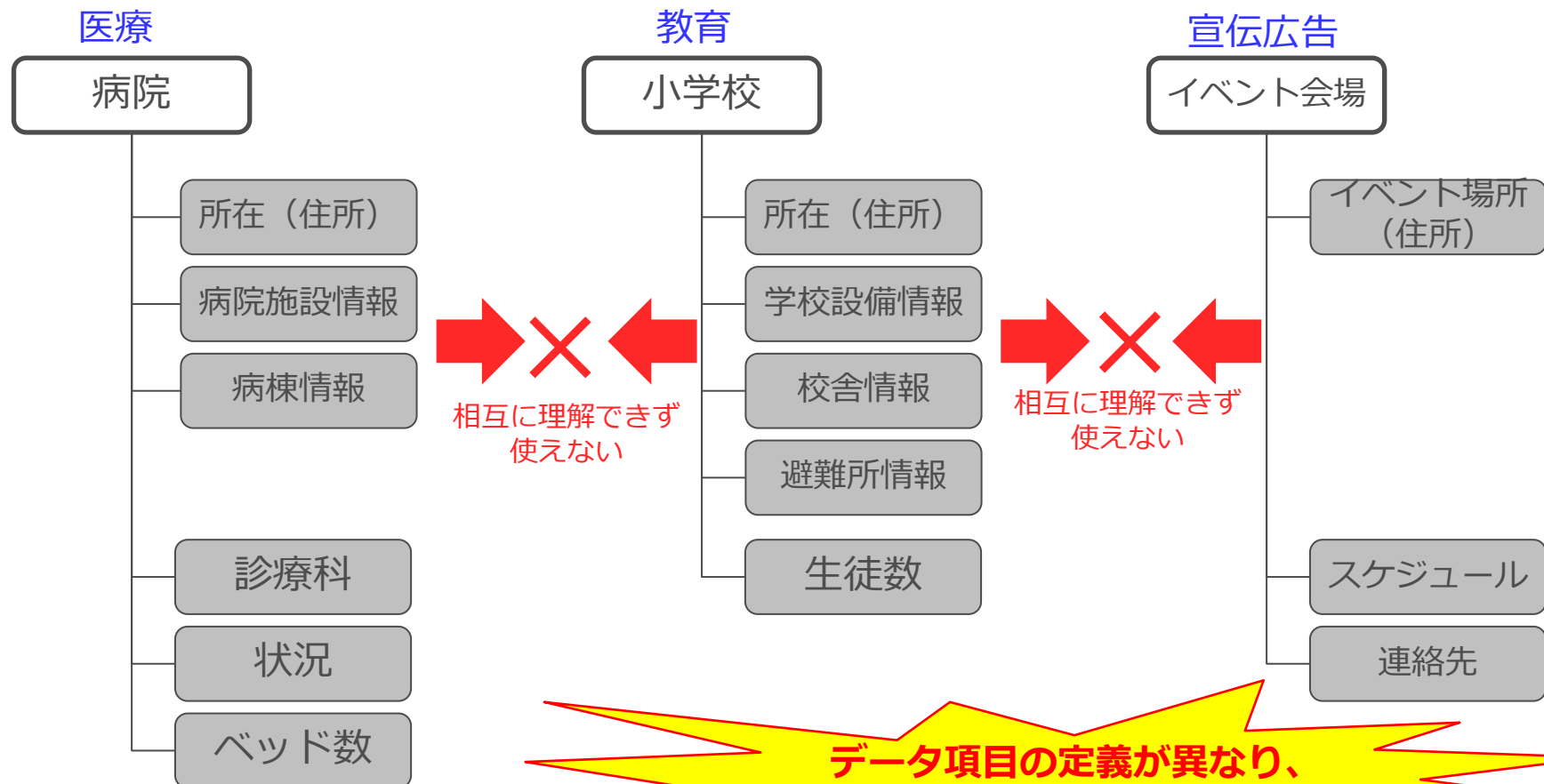
◎IPA共通語彙基盤 **コア語彙** (バージョン2.3.1) には、沢山のコア語彙が収録。

ID	ID体系	アクセス	アクセス区間
イベント	イベントスケジュール	コード	コードリスト
価格	活動	関与	期間
期間スケジュール	業務組織	金額	建物
構成員	座標	施設	施設関連
氏名	事物	時間	実体
住所	重量	詳細スケジュール	詳細スケジュール規則
場所	状況	人	人数
数量	製品	製品個品	設備
組織	組織関連	測定値	単位コード
地物	駐車場	長さ	定期スケジュール
電話番号	土地	日時	日付
法人	名称	面積	容量
連絡先			

☆IMI(Infrastructure for Multilayer Interoperability:情報共有基盤)は、IPAによって、ヨーロッパや、米国の語彙標準との関連付けを実施し、さらに、日本としての「ことば」や「その意味」を、明確化しています。

### 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (5)

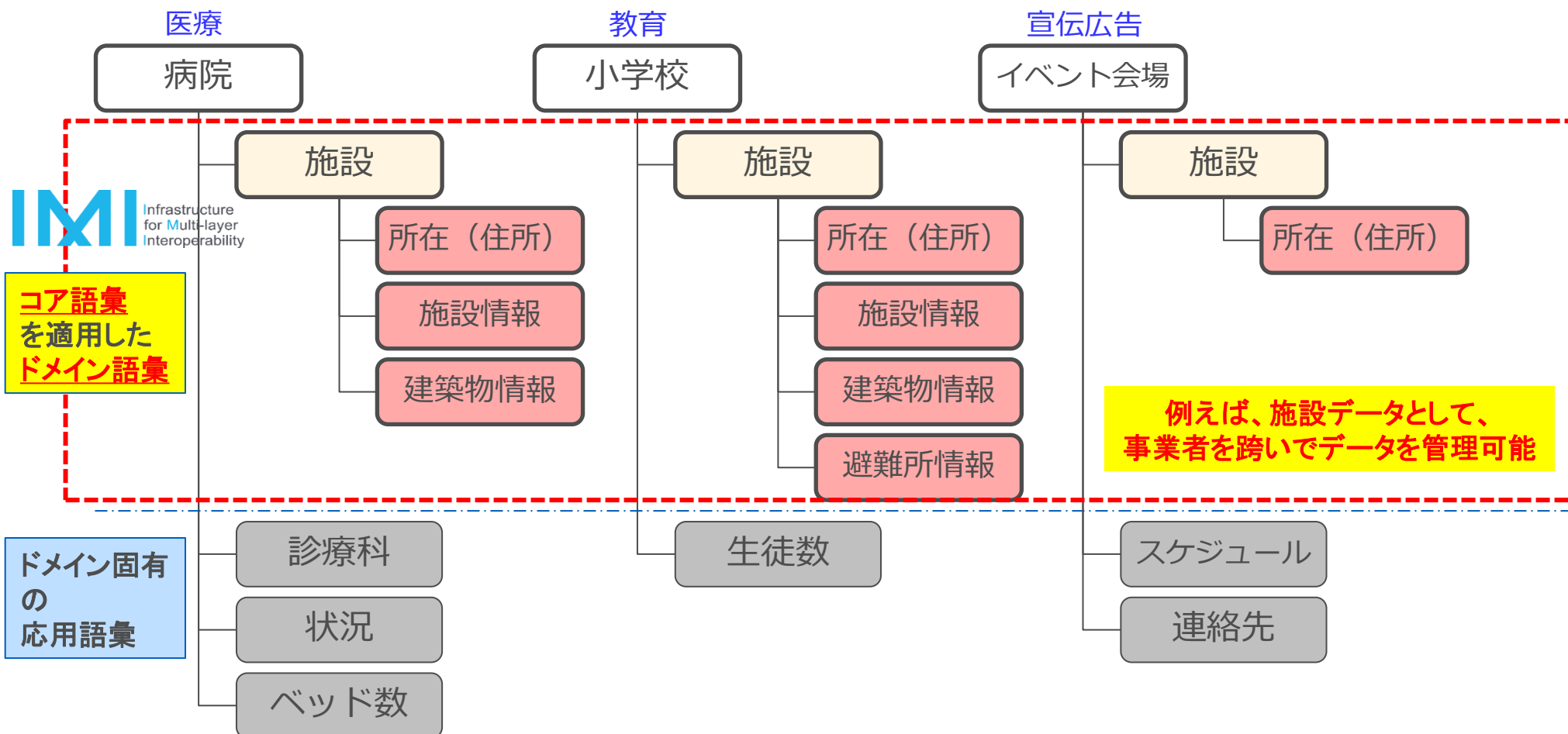
◎分野固有にデータ公開が開始されている。異なる分野/事業者のデータを集めてDBを作成したり、地図にマッピング等したいが、**データ項目の定義が異なるため、項目を理解できず、情報の集約や分析などできない**といった課題がある。



**データ項目の定義が異なり、情報の集約や分析が困難**

## 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (6)

◎ IMIのコア語彙を適用したドメイン語彙により、項目が理解可能となり、集約や分析が容易になります。





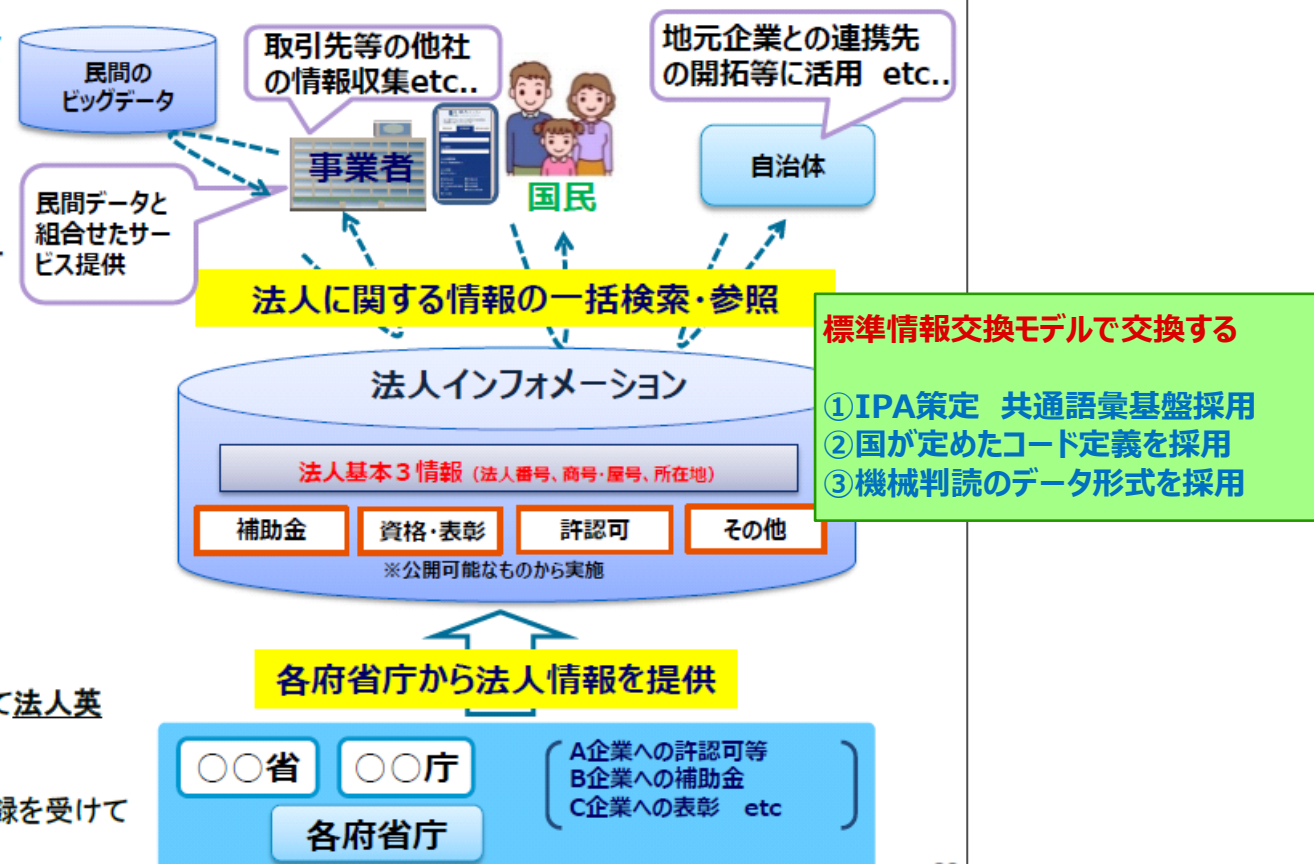
### 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (7)

#### ◎ IPA共通語彙基盤 コア語彙を利用した、データ共有（公開）の例（1）

## 法人インフォメーション <http://hojin-info.go.jp/>

### ■ 政府が保有する法人活動情報を、一括検索、閲覧、取得できるサービス

- ✓ 取引先等の情報収集や連携先の開拓等の際に、政府からの補助金や表彰等の状況が確認可能
- ✓ また、機械可読に適した形式で、外部からデータを自動取得可能としており、民間データと組み合わせたサービス等にも活用可能
- ✓ スマートフォンにも対応
- ✓ 全府省から33万件のデータを収集し、法人番号をキーに整理



法人漢字名は、JIS第4水準への縮退文字を使用

29年4月から国税庁の法人英語名登録開始を受けて法人英語名の提供を開始

30年度早期に法務局で開始予定の法人フリガナ登録を受けて法人フリガナ名の提供も予定

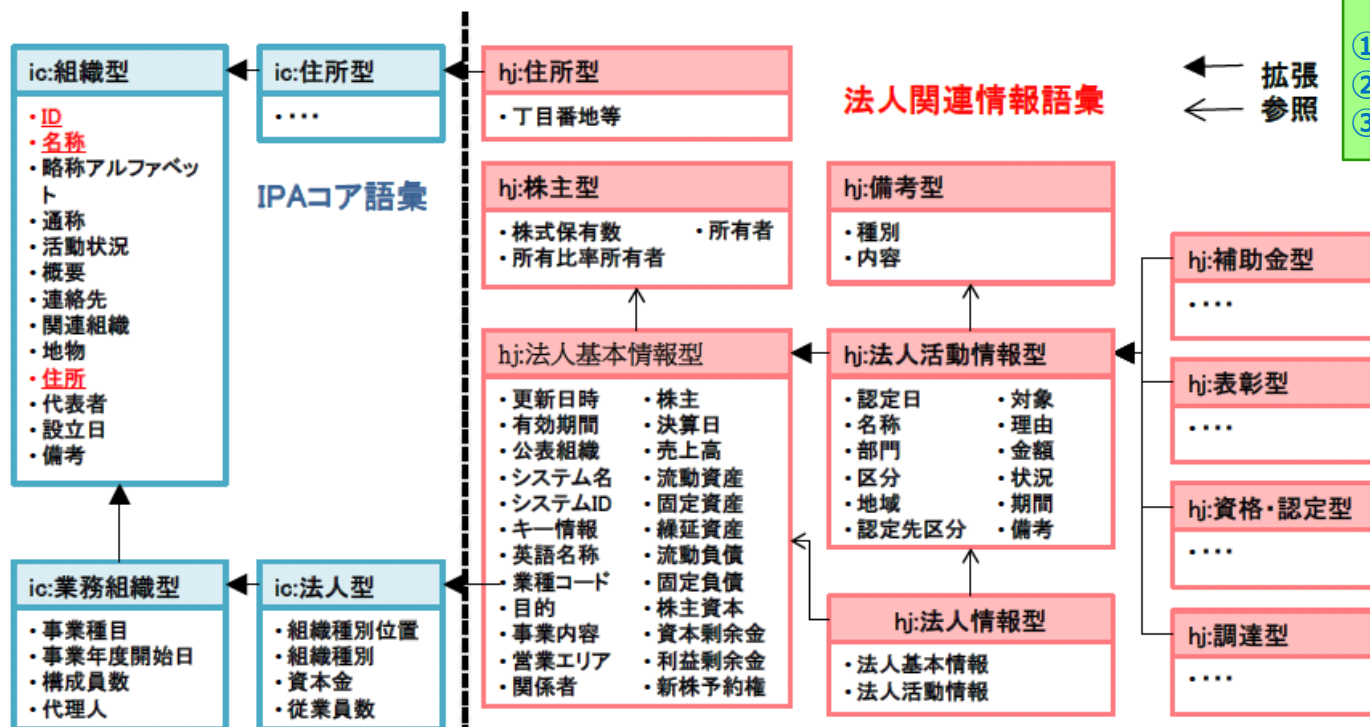
## 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (8)

### ◎ IPA共通語彙基盤 コア語彙を利用した、データ共有（公開）の例（2）

#### 法人関連情報語彙の整備

- 共通語彙基盤のコア語彙を継承し、「法人関連情報語彙」を新たに整備。
- 今後、各府省が法人関連情報を公開する際のデータ連携標準としての活用を想定。

イメージ



標準情報交換モデルで交換する

- ① IPA策定 共通語彙基盤採用
- ② 国が定めたコード定義を採用
- ③ 機械判読のデータ形式を採用

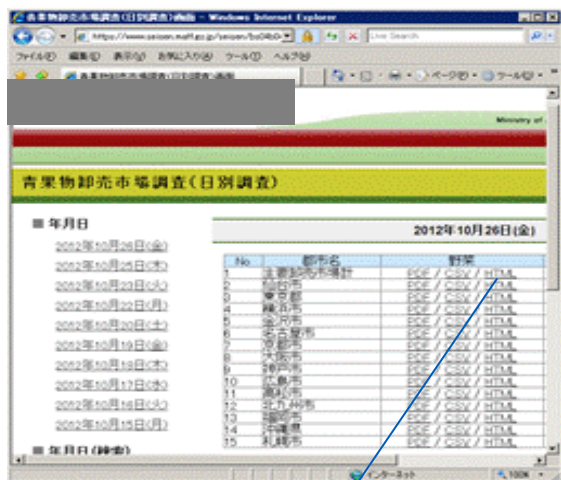


### 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (9)

#### 機械判読可能(データ項目とその値がプログラムが可読)なデータ形式の留意点

◎人判読可能データは現在多数あるが、機械判読可能データ化して、流通するには留意点がある。

機械判読可能な公開データ



HTML

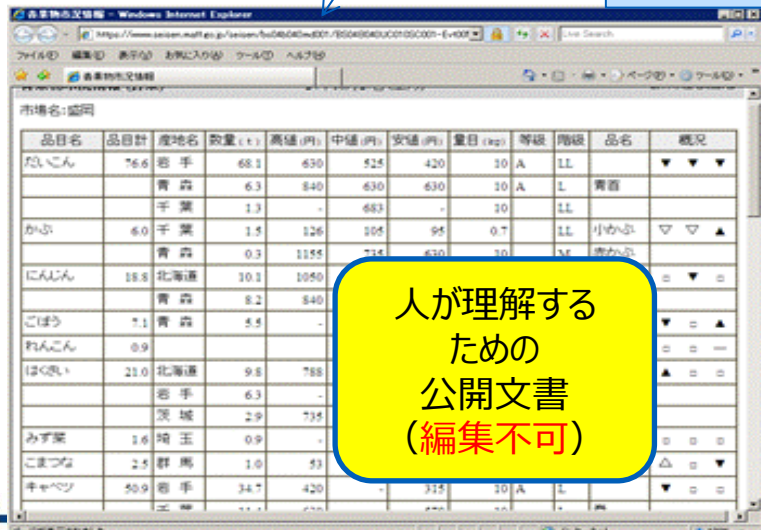


CSV

XML表現例

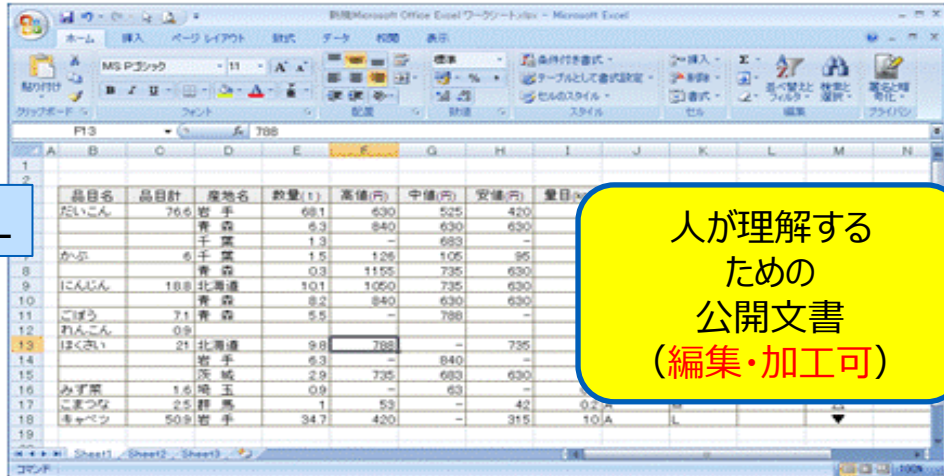
農産物市況2012\_10\_26\_盛岡\_xml  
 ...  
 <品目名>大根</品目名>  
 <産地名>岩手</産地名>  
 <数量 単位='t'>689.1</数量>  
 ...

- ・「千 葉」のスペースの削除
- ・1レコードとして欠損する値の設定
- ・複数の表の分割 ・不必要な行削除



人が理解するための公開文書 (編集不可)

EXCEL



人が理解するための公開文書 (編集・加工可)

## 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (10)

### ◎ データ共有のためのデータ形式（交換形式）の推奨（機会判読可能な範囲）

段階	公開の状態	データ形式例	参考) Linked Open Data 5star	
1段階	オープンライセンスの元、データを公開	PDF、JPG	OL - Open License (計算機により参照できる(可読))	人が理解するための 公開文書 (編集不可)
2段階	1段階に加え、コンピュータで処理可能なデータで公開	xls、doc	RE - Readable (Human & Machine) (コンピュータでデータが編集可能)	公開文書 (編集可)
3段階	2段階に加え、オープンに利用できるフォーマットでデータ公開	XML、CSV、JSON	OF - Open Format (アプリケーションに依存しない形式)	
4段階	Web標準 (RDF等) のフォーマットでデータ公開	RDF、XML	URI - Universal Resource Identifier (リソースのユニーク化、Webリンク)	機械判読可能な データ
5段階	4段階が外部連携可能な状態でデータを公開	LoD、RDFスキーマ	LD - Linked Data (データ間の融合情報が規定。検索可能)	

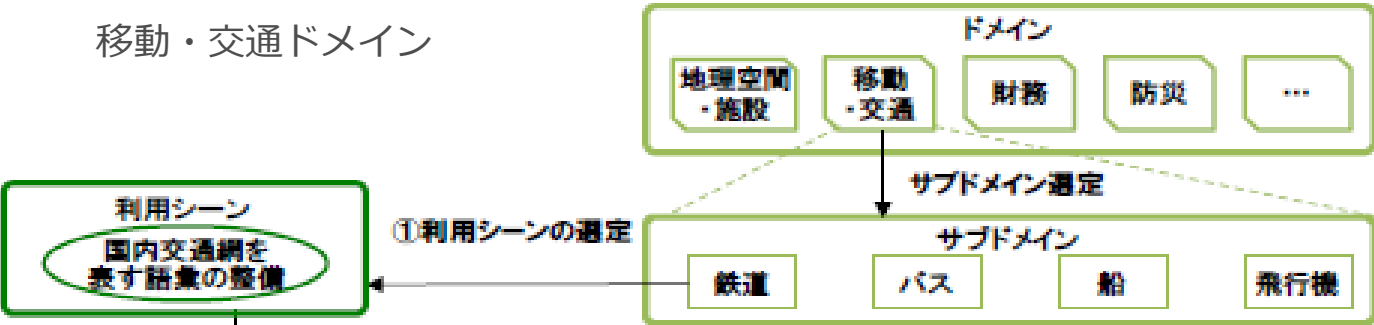
### オープンデータの5つの段階

出典：★ Open Dataのサイト (<http://5stardata.info/>) およびTim Berners-Lee氏のLinked Dataに関する提言ページ (<http://www.w3.org/DesignIssues/LinkedData.html>) を参考に作成。

### 3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙] (11)

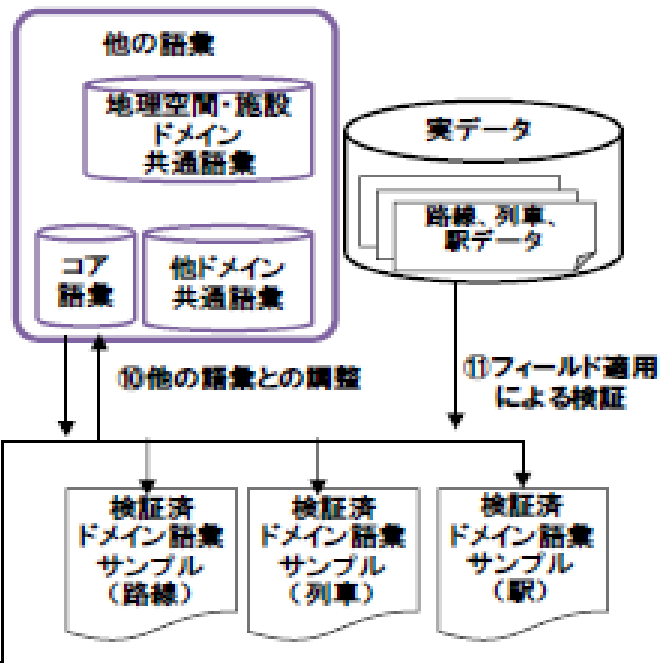
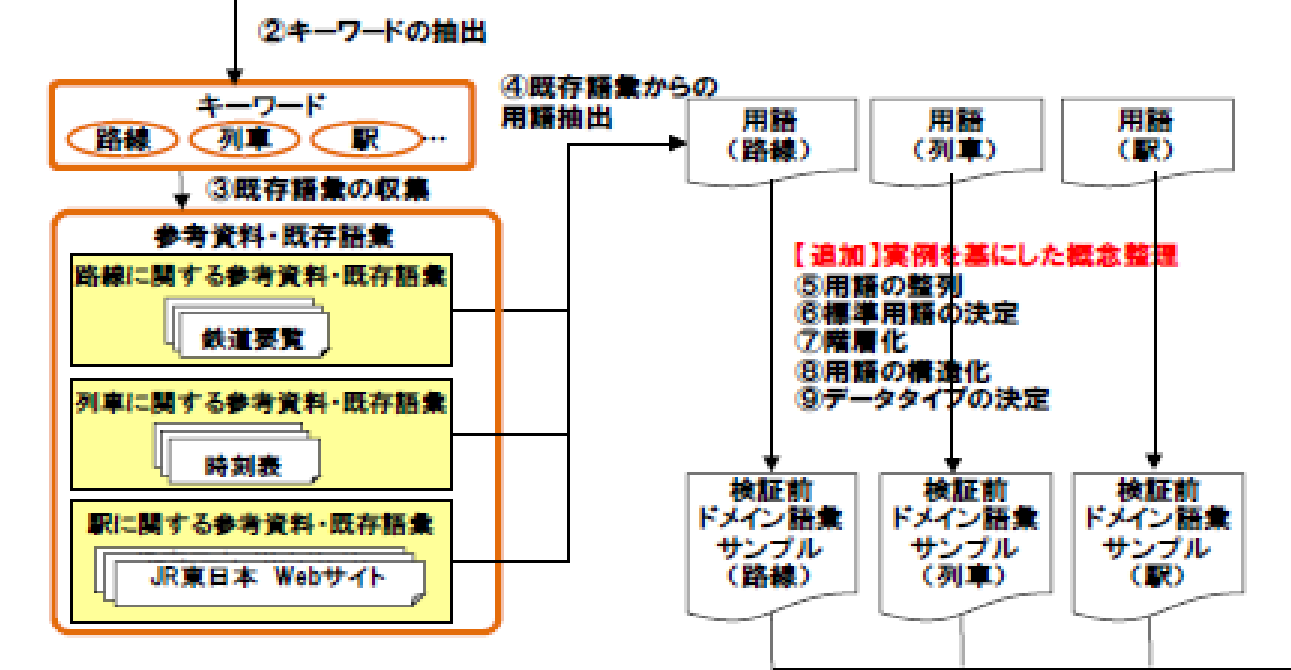
#### <共通語彙の収集・整備プロセスのイメージ>

移動・交通ドメイン



**IPAコア語彙を活用した事業者のドメイン語彙整備をご助言します**

**詳しくは、勉強会でご説明します**



## 3章のご説明内容

### 3. 産業データ共有の効果とそのためのIT基準

3.1 産業データ共有の効果

3.2 産業データ共有の課題

3.3 産業データ共有の課題への対策 [データカタログ]

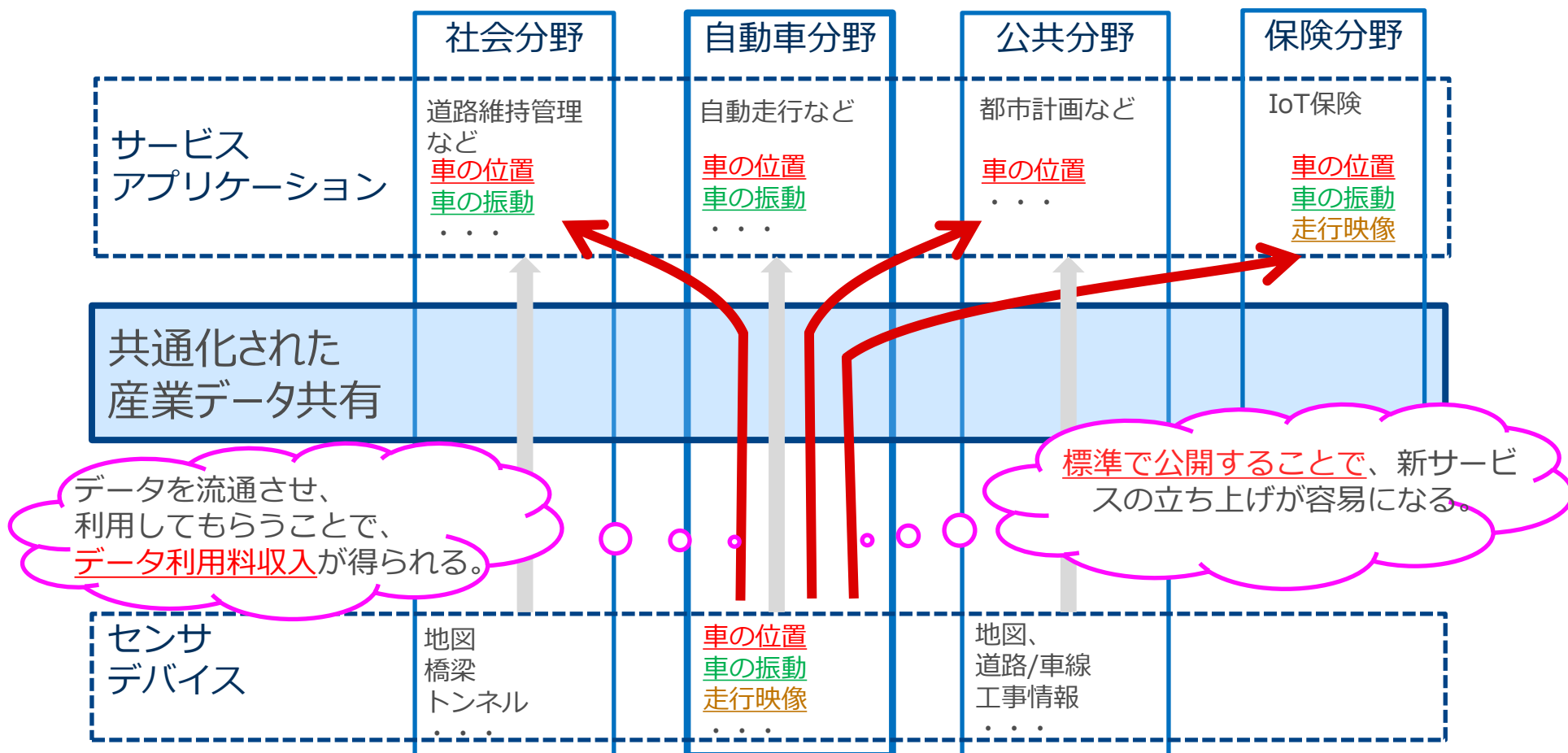
3.4 産業データ共有の課題への対策 [共通語彙]



3.5 産業データ共有の実現  
(データカタログ、共通語彙の整備)

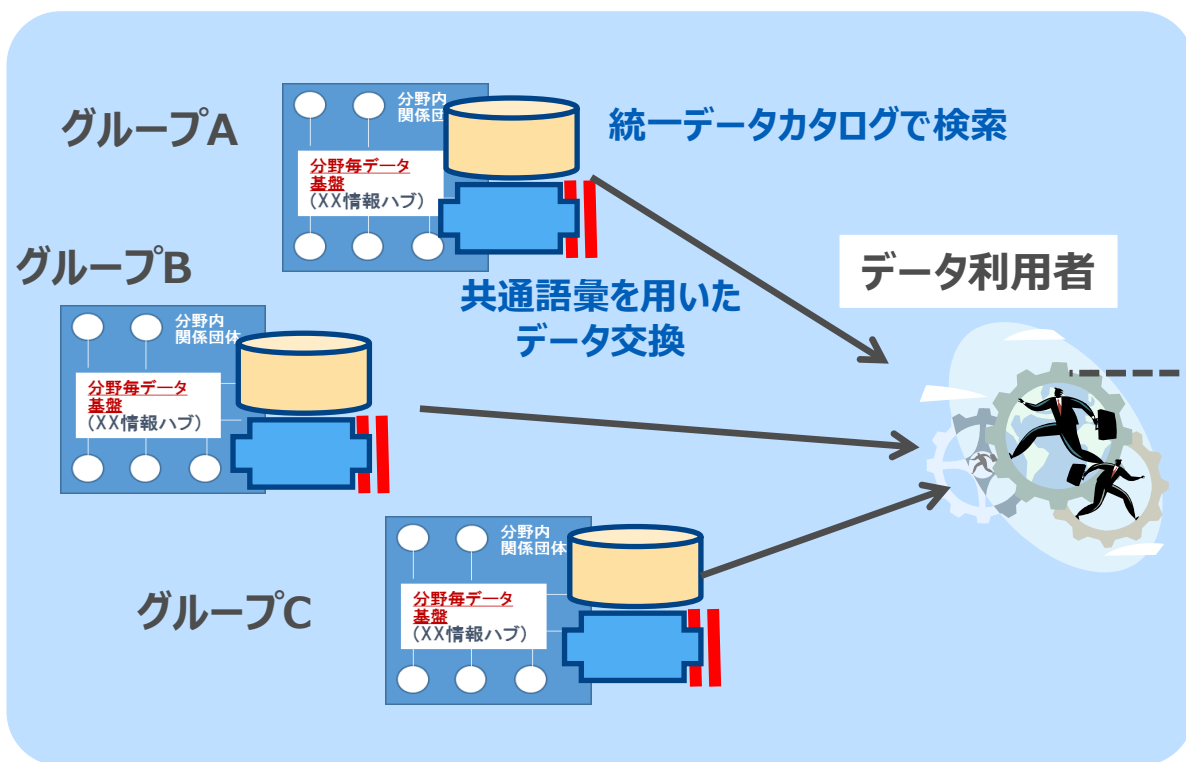
### 3.5 産業データ共有の拡大（1）他グループとのデータ共有のうれしさ！

- 現在、**企業内ではIoTデータなどのデータ活用の動きあり、IT基準の共通化が実施されデータが利用**が開始。
- **他組織横断で共通化すると、『自分たちに』どのようなメリットがあるのか！** → **探しやすいと、データ共有のしやすさ。**
- (利用者側) **多くのデータが簡単に入手**でき、**多くのデータから価値の高い情報**が得られる。
- (提供者側) **新しい取り組み(新サービスなど)が可能**。**自データを販売でき新たな収益**を得られる。



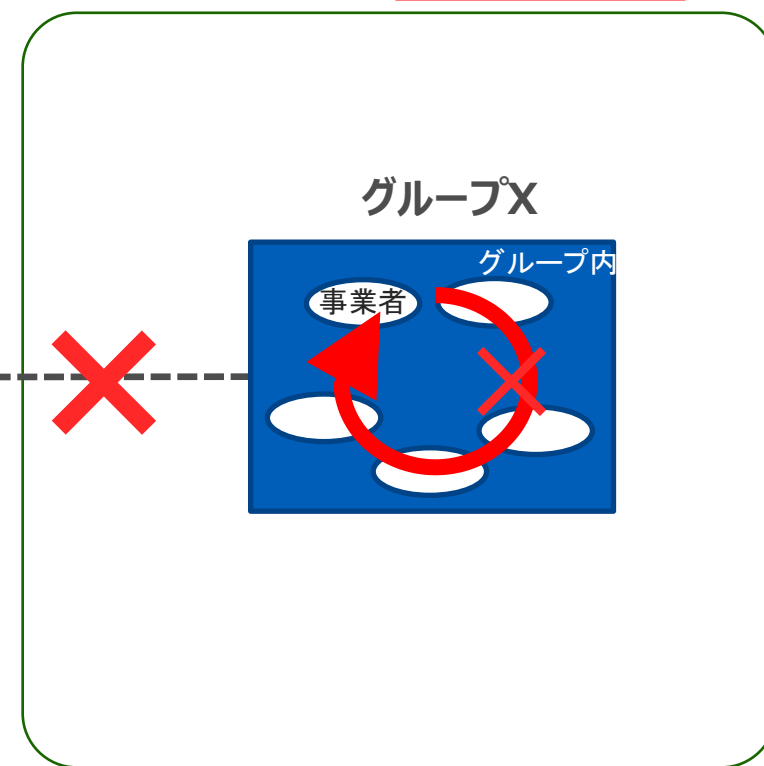
## 3.5 産業データ共有の拡大（2）他グループとのデータ共有のうれしさ！

産業データ共有の**標準化に対応**



- ・データが探しやすい
- ・データ連携が容易
- ・データ流通ビジネスの拡大

産業データ共有の**標準化に未対応**




デメリット想定

- ・他者からデータを見つけにくい
- ・データの連携にコストがかかる
- ・他者とのデータ連携が難しい

産業データ共有のための統一データカタログと、共通語彙の適用をご検討ください。

## 本日の説明内容

1. 事業における「IT標準化支援」の位置づけ
2. IT標準化支援プログラムの概要
3. 産業データ共有の効果とそのためIT基準
-  4. 課題・要望調査のためのアンケートのお願い



## 4.1 課題・要望調査のためのアンケート

補助対象事業者



### (1) 「IT標準化支援プログラム」説明会 (本日)

- (a) 事業における「IT標準化支援」の位置づけ
- (b) IT標準化支援プログラムの概要
- (c) 産業データ共有の効果とそのためIT基準
- (d) アンケートのお願い

### (2) 課題・要望調査のためのアンケート 期間：8月上旬

- (a) 産業データを共有する際の課題・要望の調査 (アンケート)
- (b) IT標準化支援プログラム(データカタログ、共通語彙策定)の希望調査

### (3) IT標準化支援プログラム (データカタログ、共通語彙策定) (希望団体)

- (a) IT標準化勉強会 (データカタログや共通語彙を団体で策定する方法)  
↓ 支援プログラムの希望団体申し込み
- (b) IT標準化支援プログラム(データカタログや共通語彙の策定助言)



## 4.2 アンケート内容

- アンケートでは、貴事業におけるデータ互換性に関する取組状況と、課題・要望を把握すると共に、IT標準化支援プログラムへの参加希望の把握等についてお伺いする予定です。

### <補助対象事業者向けアンケート（イメージ）>

- (1) 貴事業におけるデータ互換性に関する取組状況と、課題・要望
  - ・ 貴事業におけるデータカタログ、語彙、データ交換API、データ品質基準の検討状況
  - ・ 貴事業にて活用するIT基準
  - ・ 貴事業におけるデータ互換性等に関する検討課題
  - ・ ガイドライン整備に対する要望
- (2) IT標準化支援プログラムへの参加希望
  - ・ データカタログ、共通語彙策定に関わる勉強会への参加や、アドバイスに対する希望

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

# まとめ

- (1) 「[DTAデータカタログV1.0](#)」、[IPA「共通語彙」](#)は、国際標準を採用し、国内の要望に対応したIT標準です。
- (2) [各グループ内のデータ共有のための標準として採用](#)を検討ください。グループ内で効率的に標準策定ができるとともに、[他グループへのデータ公開や連携に役立ち](#)、データ流通ビジネスの拡大に寄与できると考えます。
- (3) 事業支援委員会では、関連するIT基準の[勉強会](#)と、[策定を実施するグループへの支援（助言）](#)を実施いたします。

事業支援委員会（IT標準化支援担当）  
一般社団法人 データ流通推進協議会



